

(別添2)

No.	2
策定年月	令和3年4月
見直し年月	-

麦・大豆産地生産性向上計画 寒河江市産地 (作成主体:寒河江大豆組合)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

寒河江市は、全水田面積に対して主食用米の作付割合が約6割を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、非主食用米の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆産地づくりを推進していく。

また、排水対策や中耕培土・除草等に取り組み、単収の増加・安定を実現する。

現在、寒河江市においては、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、当組合としても本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに、関係者の連携を強化し地域農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・大豆については、「里のほほえみ」を中心に約185t(令和元年産)が全農山形を通じ、主に豆腐用として卸問屋に向けて販売されている。しかし近年、天候不順等の影響により作柄が不安定なため、安定供給が実現できておらず、生産量の高位安定化が必要である。

(2) 生産における現状と課題

近年、大豆の生産面積は増減を繰り返しながら減少傾向に推移しており、単収は天候に左右されやすく安定していない。このため、生産量の変動も大きい。大豆はブロックローテーション(約3年毎)により市内各地区で団地化して取り組んでいるほ場が大部分のため、団地化率は高く、連作障害はほとんどないが、定着団地については近年マメシンクイガ等の被害が多く目立っている。

また、排水不良が単収低下の大きな要因となっており、中耕培土・除草作業についても改善が必要となっている。さらに、近年は農家の高齢化に伴う担い手の減少により面積の拡大が困難となっており、これまで以上の栽培管理・収穫等の機械整備が必要となっている。